

食中毒の発生について

平成30年4月29日

記者発表資料

[概要]

平成30年4月28日（土）午後7時頃、中北保健所峡北支所に、北杜市内の医療機関から、食中毒症状を呈した患者を診察した旨の連絡が入った。

中北保健所峡北支所が調査を行ったところ、患者は同日、瑞牆山付近を散策し、自生していた「ウルイ（オオバギボウシ）」をおひたしにして食べたとのことであったため、当該植物を確認したところ、有毒植物である「バイケイソウ」と判明した。

同支所は、食べた植物が「ウルイ（オオバギボウシ）」でなく「バイケイソウ」であること、患者の症状及び潜伏期間が「バイケイソウ」によるものと一致していること、患者を診察した医師から食中毒の届出があったことから、「バイケイソウ」による食中毒と断定した。

- 1 発症日時 平成30年4月28日（土）12時30分頃
- 2 喫食者数 1名
- 3 患者数 1名
- 4 主な症状 嘔気、嘔吐、下痢、めまい
- 5 原因食品 おひたし（野外で調理）
- 6 病因物質 植物性自然毒（有毒植物バイケイソウ）（推定）
- 7 その他 患者は快方に向かっています。

（参考）山梨県の集団食中毒発生状況（本件を含む）

	発生件数	患者数	死亡者数
本年	7件	47名	0名
平成29年	11件	95名	0名

（問い合わせ先）

福祉保健部衛生薬務課
食品衛生・動物愛護担当
電話 055-223-1489（内線3457）

※本日の報道対応は、17時00分まで待機させていただきます。

【参考資料】

- 1 喫食時間 4月28日（土）12時頃
- 2 発症日時 4月28日（土）12時30分頃（喫食後 約30分）
- 3 喫食者数 1名 （ 50代 男性 ）
- 4 患者数 1名
- 5 患者の喫食した料理 おひたし、うどん、ジンギスカン

＜山梨県における有毒植物による過去の食中毒事例＞

- 平成30年 ニラと間違えスイセンを誤食（患者5名）
- 平成30年 ニラと間違えスイセンを誤食（患者4名）
- 平成30年 ニラと間違えスイセンを誤食（患者1名）
- 平成29年 ニラと間違えスイセンを誤食（患者5名）
- 平成19年 テンナンショウ属（マムシグサの仲間）の誤食（患者1名）
- 平成18年 ギボウシ（ウルイ）と間違えバ 竹ゆり又はカ 竹ゆりを誤食（患者6名）

＜県民への呼びかけをお願いします＞

有毒植物による食中毒にご注意ください！

毎年、春先から初夏にかけて、家庭菜園や山菜採りなどを通じて、誤って有毒植物を喫食することによる食中毒が発生し、近年、増加傾向にあります。

平成29年には、全国で事件数34件、患者数134件（うち死亡者1名）が報告されています。

※有毒植物の誤食による食中毒防止のため、次のことに注意しましょう

◎家庭菜園や畑などで、野菜と鑑賞植物を一緒に栽培することはやめましょう

◎山菜に混じって有毒植物が生えていることがありますので、山菜採りをするときは、一本一本よく確認して採り、調理前にもう一度確認しましょう

◎種類の判定ができない植物は、「採らない」「食べない」「売らない」「人にあげない」

バイケイソウ（有毒）について

- ・誤って食べると、30分から1時間で、吐き気、嘔吐、手足のしびれ、めまいなどを引き起こし、重症の場合は死亡することもあります。
- ・バイケイソウの新芽はギボウシやギョウジャニンニクに似ており、誤植して食中毒になる例が多いため注意が必要です。花はそれぞれ異なるため、開花時に場所を確認しておくことも必要です。
- ・バイケイソウの新芽の葉は葉脈が平行ですが、ギボウシの葉は太い中央脈があり長い葉柄が伸びています。
- ・ギボウシとバイケイソウが混在して自生している場合もあります。判別できない時は食べないようにしましょう。

＜参考＞

山梨県のホームページ<http://www.pref.yamanashi.jp/>のサイト内検索で**有毒植物**と入力し検索してください。（厚生労働省ホームページへもリンクしています）